



『 肝臓の“硬さ”を知る方法 』

慢性肝疾患の原因にはウイルス性肝炎、アルコール性肝炎、非アルコール性脂肪肝炎、自己免疫性肝疾患等があります。病気が進行した肝硬変症では食道胃静脈瘤破裂、むくみ、腹水、黄疸、肝性脳症が出現したり、肝臓が高率に発生しやすくなります。

肝臓の“硬さ”を知る方法として、以下のようなものがあります。

①肝線維化スコアリング

血液検査や年齢等を計算式にあてはめて評価します。但し疑陽性もあります。

②血液検査

血小板数や線維化マーカー(Ⅳ型コラーゲン 7S 等), M2BPGi 等を測定して検討します。

③超音波 elastography

専用の装置で肝臓の硬さや肝臓の中の脂肪の量を測定します。

④肝生検

肝臓に針を刺して少量の肝組織を採取し病理検査します。入院が必要です。

実際の臨床ではこれらの検査を組み合わせることで肝臓の状態を把握していきますので、肝疾患が気になる方は医師に御相談ください。

鹿児島厚生連病院

肝臓内科部長

最勝寺 晶子